

仙台第二高等学校

教育目標 至誠業に励み 雄大剛健

の風を養い ともに敬愛切磋を怠らず



1 基本データ

創立：明治33年
課程・学科：全日制課程・普通科
生徒数：958名
所在地：〒980-8631
仙台市青葉区川内澱橋通1
TEL：022-221-5626
FAX：022-221-5628

ホームページアドレス：<https://sen2-h.myswan.ed.jp/>
学校代表メールアドレス：sen2-h@od.myswan.ed.jp
主な交通機関
仙台市営地下鉄 東西線 国際センター駅下車 徒歩4分
仙台市営バス：仙台駅バスターミナルより
730系統交通公園・川内(営)行き 739系統交通公園循環
宮城交通バス：仙台駅前より 広瀬通経由川内亀岡行き
いずれも 二高・宮城県美術館前下車 徒歩1分

2 学校の特徴

キャッチフレーズ

文武一道

本校の大先輩、柔道家三船久蔵十段のことば。学業と部活は相反するものではなく、人間形成のためには両者を等しく追求することが不可欠であるとの信念に基づくことばです。

(1) 学校の概要(沿革、環境、施設等)

明治33年に宮城県第二中学校として創設以来、百二十余年の歴史と伝統を有する学校です。青葉山の麓、広瀬川の清流に臨み、近隣には東北大学や県美術館、仙台市博物館、仙台国際センターなどがある文教地区に位置しており、まさに「学都仙台」を象徴する学校といえます。

校内には150本を超える桜をはじめ、樹齢数十年のヒマラヤスギが林立し、あたかも森に囲まれたような見事な景観を呈し、学校生活に潤いを与えてくれています。

今後、校舎の老朽化に伴い、大規模なリニューアルが予定されており、さらに快適な環境で学習に励むことができるようになります。

学校の主な施設の概要は以下のとおりです。

- ・校地面積：56,965㎡
- ・運動場：硬式・軟式野球場、ラグビー・サッカー場、テニスコート4面
- ・建物：管理棟(南校舎2階建)、教室棟(北校舎3階建・各教室冷暖房完備)、理科教室棟、家庭科実習棟、食堂、図書館、講堂、柔剣道場、体育館、50mプール、弓道場、北陵館(百周年記念館)

(2) 教育方針

《育てたい生徒像》

- ① 真摯な姿勢で物事に対処できる、度量が大きく、心豊かな若者
 - ② 自らの主体的な行動により、社会に貢献し、グローバルに活躍する人材
- 《中・長期的目標》

- ① 幅広い教養と確かな学力の保証
- ② 主体的な進路選択とその実現
- ③ 人格の練磨と自主自律の精神の伸張
- ④ 「本物」に触れる機会の提供、豊かな感性と情操の涵養

⑤ 開かれた学校づくりの推進

《本年度重点目標》

かけがえのない自他の命を大切に、心身ともに健康な生活を送る

- ① 授業第一主義のもと、生徒の主体的な学習態度の育成と質の高い授業づくりを追求する
- ② 新学習指導要領に基づいた指導と高度な探究活動の実践により、生徒の資質・能力の向上を図る
- ③ 新入試への適切な対応により、生徒一人ひとりの進路目標達成を支援し、学校全体の進学実績を高める
- ④ 基本的な生活習慣を確立するとともに、自主自律の精神・態度を育成し、生徒の学校内外における生活の質を高める
- ⑤ 一人一台端末の活用を推進し、ICTによる教育活動を発展させることで、多様な学びの環境の整備を整える

(3) 教育課程の特徴

- ① 選択科目の設定
1年次は共通履修を基本として編成し、2年次からは文科系・理科系の類型制を設定しています。1年は芸術、2年は理科と地理歴史、3年は進路に応じた科目を選択することになります。
- ② 個に対する指導
国公立大2次試験、私大受験に対応するため第3学年に増加単位を設け、選択制を導入しています。
長期休業講習に加え、平常講習、個別添削指導、小論文指導などを実施し、生徒の要望に応えています。
- ③ 教育課程
授業は1時限を45分、一日7時限で実施しています。また「総合的な探究の時間」を通して知的探究心を高めるとともに、学問的かつ人間的な視野を広げ、個々の資質の伸長を図っています。

(4) 行事・生徒会活動・部活動

- ① 主な行事
4月 大運動会
5月 仙台二高・一高硬式野球定期戦
6月 芸術鑑賞
北陵グローバルゼミ(2年生)
7月 岩手山登山(1年生)

アメリカ研修(2年生)

8月 未来キャリア創造プロジェクト(1年生)

9月 北陵祭(文化祭)

10月 秋季体育大会

② 生徒会活動

自主・自立の精神のもと、生徒自身の手によって主体的に運営されています。年2回の総会では激論が展開され、12ある委員会も活発に活動しています。また、北陵祭(文化祭)における実行委員諸君の献身的な活躍にも特筆すべきものがあります。

③ 部活動

運動部が21部、学芸部が12部、そして愛好会も多数あります。兼部も認められています。各部活動は活発に活動しており、学校HP等でその活躍を紹介しています。

(5) 卒業生の進路状況

進路一覧(過去3年間、進学者・就職者数)

進路	R5	R4	R3
国公立大学	157	140	162
国公立短大	0	0	0
私立大学	48	46	39
私立短大	0	1	0
専各学校	0	0	0
大学校・就職	1	1	1
その他	106	120	111
卒業生計	312	308	313

主な進路先(令和6年3月卒業生)、

()内は人数 (1)は省略

<国公立大学>

帯広畜産大、北海道大(11)、弘前大、岩手大(5)、東北大(67)、秋田大(5)、山形大(14)、筑波大(2)、埼玉大(5)、千葉大(3)、お茶の水女子大(2)、電気通信大、東京大(11)、東京医歯大、東京外大(2)、東京学芸大、東京工業大(2)、横浜国立大(2)、新潟大(2)、富山大、静岡大、京都大(2)、大阪大(2)、神戸大、香川大、九州大、熊本大、宮城大(2)、福島県立医大(2)、東京都立大(3)、横浜市立大、都留文科大

<私立大学>

東北学院大(2)、東北医薬大(5)、自治医大、青山学院大(3)、慶応大(10)、中央大(5)、東京女子医大、東京農大(2)、明治大(5)、立教大、早稲田大(11)、同志社大、立命館大他、

<就職>

仙台市職員

3 学校魅力発信

(1) 本校生徒の活躍

令和5年度 第18回全国高等学校囲碁選抜大会 団体優勝

夏連覇に続き、春の選抜大会も全国制覇



男子団体優勝メンバーと女子個人戦に出場した二井真理
(写真左から永澤、二井、二階堂、千葉)

夏の文部科学大臣杯の2連覇に続き、春の全国高等学校囲碁選抜大会も優勝を果たした仙台二高囲碁部男子団体。今回は千葉和真、二階堂史晟、永澤周侍の3名で臨んだ。春の選抜大会は1回戦で静岡代表清水東高校を相手に全勝で勝ち進むと、続く2回戦は全国屈指の強豪兵庫県代表の灘高校。苦戦するかと思われたが、全勝で勝ち抜いた。3回戦の相手は東京代表の麻布高校。ここも全勝で勝ち抜けると、4回戦は事実上の決勝戦となった東京代表の開成高校との一戦。三将が惜しくも敗れたものの、副将と大将が接戦をものにして勝利。優勝を決定させた。苦しい試合展開をものにしたのも二高生の精神的支柱として連綿と受け継がれている「敬愛切磋」の理念があったから。今年度は文部科学大臣杯3連覇を目指し、研鑽の日々が続いている。

(2) 主な学校行事① 岩手山登山

仙台二高の伝統行事の一つで7月中旬の3日間、1年生は奥羽山脈の最高峰である岩手山に挑む。ふもとから登り始め、標高2038mの山頂まで、往復10時間の旅である。男女共学になった2007年度以降は男子とともに女子も登っている。

県内の学校ではほとんど行われていない登山であるが、本校では栗駒山登山を引き継ぐ形で2009年度から岩手山登山に切り替えた。山頂に到達した生徒たちは達成感を味わい、天空の景色に感動する。

〈生徒の声〉

1コース 1班 班長 筒井大輝(南吉成中学校出身)

私が岩手山登山のことを知ったのは今から1年ほど前、学校説明会で仙台二高を初めて訪れた日だった。あの頃はどんな行事なのか知る由もなかった。

体育ですぐに栗駒走が始まり、真の二高生になるための関門だと聞き、重要な行事だと認識するようになった。登山靴を用意してから山行訓練が始まり、班編成も確定した。私は高校で登山など滅多にない機会だと考え、班長になった。

1日目のオリエンテーリングが予想だにしないハードな内容で骨が折れたが、班の結束を高めるこの上ない経験だったと思う。ポイントを全て回ったことは達成感を生んだ。

2日目の登山では、早い段階で疲労がたまり、精神的に苦しい場面が何度もあったが、班員との会話が疲労を忘れさせてくれた。頂上に着いたとき、努力が形になったことに大きな喜びを感じた。登山を達成する過程で得られた数々の成果は、今後に生かせる力になったと思う。支えてくれた友人、先生、ガイドさん、旅館の方々、そして岩手山。すべてに深く感謝したい。



(2) 主な学校行事② 仙台二高・一高硬式野球定期戦

「社の都の早慶戦」と言われる伝統行事。明治33(1900)年開校と同時に始まり、本家の早慶戦よりも歴史は深い。両校の野球部は全校生徒の応援を背に、誇りをかけて戦いを繰り広げる。応援によって力を得た両校の選手たちの必死のプレーは深い感動を巻き起こす。令和5年の定期戦も緊迫した投手戦を繰り広げ、0-1で惜しくも敗れた。

〈生徒の声〉

令和5年度硬式野球主将 阿部千慈(八軒中学校出身)

定期戦。それは他のなにもとも違う、特別な舞台だった。校門前の試合までのカウントダウンボードは、この一戦への全校生徒の注目を煽り、私達野球部員に実感を湧かせる。たった一試合に何人も人が勝利を期待する中でプレーする興奮は、かけがえのないものだった。もちろん、試合が近づくにつれてプレッシャーも感じてくる。ただ、どんなに不安があったとしても、その舞台に立つ者はたくさんの応援に応える覚悟を持たなければならないと感じた。

緊張感のある試合だったが、勝つことはできなかった。76回生がファイアーストームをすることなく卒業したことは、私の高校生活での大きな悔いになっている。しかし、試合に負けても頑張ったと労ってくれる。良かったよと言ってくれる。そんな全校生徒と一体となって戦うことができて、幸せだった。

最後に、全力で応援してくれた全校生徒の応援団、先生方、この一戦のために動いてくださった全ての方々、共に戦った仲間に感謝します。



4 令和5年度卒業生からのメッセージ

陸上競技部 女子100m、200m、4×400mリレー東北大会出場

白鳥名花(仙台市立五城中学校出身)

(現東北大学1年在学中)

文武一道。これは仙台二高の生徒が大切にしている言葉である。そしてそれぞれが追い求める目標にたどり着いたとき「文武両道」とは一線を画するものであると思いつく。

仙台二高は県下有数の進学校であるが、勉強だけの学校ではない。ここに集まる仲間は皆志が高く、その中に身を置くと学業も部活動も共に高い目標を持ち、たゆまず努力することの大切さを日々学んでいる。

私は高校陸上での目標と、将来の夢を叶えるための大学進学、その両方を手に入れたいと欲張り、三年間励んできた。決して器用に両方をこなせたわけではないが、振り返るとそれぞれがあったからこそたどり着けた場所があったと考えている。仙台二高は限りなく可能性を広げてくれる場所。ここでの学びに感謝している。